

発行：オープンアクセスリポジトリ推進協会

jpcoar@nii.ac.jp

特集！ オープンアクセスウィーク2017



2017年10月23日～29日は国際オープンアクセスウィークでした。今年は”open in order to…”をテーマに、各地で期間中に様々な取り組みが行われました。その一部をご紹介します。

法政大学図書館

スライドの投影・ポスターの掲示



筑波大学附属図書館

ポスターの掲示



東京大学附属図書館

ポスターの掲示

東京大学でのオープンアクセス実現方法

オープンアクセスとは、研究成果論文などの学術情報をウェブ上に無料公開することで、誰もが自由にアクセスできるように(オープンに)することです。研究成果をオープンアクセスにすることで、視認性が向上し、研究成果の活用が促進されるようになります。

方法1

雑誌に掲載された論文を自ら公開

国際ジャーナルを刊行する主要出版社の約80%が、雑誌に掲載した論文でも機関リポジトリなどで自由に公開することを認めています。

＜公開できる雑誌は、主に次の2カテゴリー＞

- ✓ 査読後に論文が受理された時点の最終原稿
- ✓ 出版後のリバイフ後、実際に出版された原稿

東京大学に所属の方は、大学の機関リポジトリ UTokyo Repository をご利用ください!

論文を機関リポジトリ等で公開できるかどうかは、雑誌の出版規定や著作権譲渡契約書を確認する。下記のオープンアクセス相談窓口にご相談ください。

UToKyO Repositoryとは、学内で刊行した学術雑誌を電子ジャーナルのように公開できる。いわば「UToKyOの学術情報センター」です。研究論文や研究報告書、手続文、電子ジャーナルなどがあります。また、学位論文なども東京大学の機関リポジトリに登録し、公開することができます。

＜こんなことが！＞

- ✓ ウェブ上で、いつでもどこでも論文が読めるようになるので、図書館や研究室が閉まっているときでも、コピーの費用もかかりません。
- ✓ 論文の送付作業が大幅に軽減されます。
- ✓ 電子版の在庫管理も少なくなります。

お問合せ先
UToKyO Repositoryでの電子ジャーナル化をご検討の方は、お気軽に下記のオープンアクセス相談窓口までご相談ください。

研究データの電子公開は?

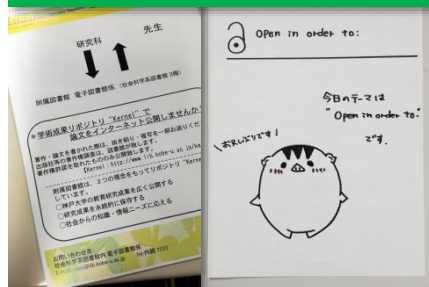
論文の付録データについても、論文と併せて UToKyO Repository で公開できる場合があります。詳細は下記オープンアクセス相談窓口にお問い合わせください。

詳しくは「オープンアクセスハンドブック」をご覧ください
<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/oa/oacontents/oacontentbook>

問合せ先: 附属図書館オープンアクセス相談窓口(附属図書館3階)
E-mail: acinfo@lib.u-tokyo.ac.jp / Tel: 内線 22607 (外線 03-5841-2607)

神戸大学附属大学図書館

抜き刷り送付用の封筒・twitterでの広報



鳥取大学附属図書館

リポジトリ案内用の冊子作成



富山大学附属図書館

ポスター等による展示



オープンアクセスウィークは毎年開催されている世界的なイベントです。まだ実施したことがない方々も他機関の取り組みや以下のサイトを参考に、来年は是非参加されてみてはいかがでしょうか。またオープンアクセスウィーク2017にあたり、情報をご提供いただきました皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

- Open Access Week : <http://www.openaccessweek.org/>
- JPCOAR オープンアクセスウィーク2017特設サイト : https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=72

(広報普及作業部会)

特集！ 2017年10大トピック（国内動向）

2017年も残りわずかとなりました。CoCOAR編集担当が選ぶオープンアクセスやオープンサイエンスに関連した今年のトピックを紹介します。

1. デジタルリポジトリ連合（DRF）解散

2017年3月31日をもってDRFが解散し、12年の歴史に幕を閉じました。DRFに関わられた皆様、おつかれさまでした！
DRFの活動は、今後、JPCOARが引き継いでいきます。



DRF沿革

<http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?History>

月刊DRF 87号【特集】 さよならDRF

http://drf.lib.hokudai.ac.jp/drf/index.php?plugin=attach&refer=月刊DRF&openfile=DRFmonthly_87.pdf

2. JPCOARの諸活動

設立2年目を迎え、JPCOARのさまざまな成果が公開された1年でした。

- 2月 オープンアクセス方針策定ガイド・オープンアクセス方針リンク集の公開
- 3月 JPCOAR スキーマ（案）の公開と意見募集
- 6月 NIIオープンフォーラム2017：リポジトリトラックの開催
RDMトレーニングツールの公開
機関リポジトリ新任担当者研修
- 7月 Facebookページを公開
- 9月 JPCOAR Newsletter: CoCOAR創刊
- 10月 JPCOARスキーマ説明会、JPCOARスキーマ策定
- 11月 gacco「オープンサイエンス時代の研究データ管理」開講
図書館総合展ポスターセッションに参加
DSpaceからJAIRO Cloudへのデータ移行相談会

各成果物やお知らせはJPCOAR ウェブサイトからご覧いただけます。

3. オープンサイエンス基盤研究センター新設

2017年4月1日付で国立情報学研究所（NII）にオープンサイエンス基盤研究センターが新設されました。大学や研究機関のオープンサイエンス活動を支えるため、ICT基盤の構築と運用に取り組むということです。11月には欧州原子核研究機構（CERN）や物質・材料研究機構（NIMS）と連携して次世代リポジトリソフトウェアの開発に着手したことも報じられました。

「オープンサイエンス基盤研究センター」を新設／ICT基盤の構築と運用で日本のオープンサイエンス展開に貢献

<http://www.nii.ac.jp/news/release/2017/0403.html>

オープンサイエンス時代の次世代リポジトリソフト開発に着手／国立情報学研究所が欧州原子核研究機構と共同で／物質材料研究機構も連携

<http://www.nii.ac.jp/news/release/2017/1107.html>

4. 研究助成機関のOAポリシー

2017年3月21日付で日本学術振興会（JSPS）が「独立行政法人日本学術振興会の事業における論文のオープンアクセス化に関する実施方針」を公表し、2017年4月1日付で、科学技術振興機構（JST）が「オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針」とその運用ガイドラインを公表しました。JSTのオープンサイエンス方針では論文のオープンアクセス化を推奨するだけでなく、研究データの管理計画作成・提出を求め、公開を推奨しています。

独立行政法人日本学術振興会の事業における論文のオープンアクセス化に関する実施方針

https://www.jsps.go.jp/data/Open_access.pdf

オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針

<http://www.jst.go.jp/pr/intro/openscience/index.html>

5. IIIFの普及

画像を公開し共有するための国際的な枠組みである International Image Interoperability Framework（IIIF）を採用する事例が一気に増えた年でした。慶応大学・京都大学・中野区立図書館のデジタルアーカイブなどで採用されています。また、10月にはIIIFの主要メンバーが来日し、各地でイベントが開催されています。オーストラリアで開催された Open Repositories 2017でもIIIFの入門ワークショップ設けられているようにリポジトリコミュニティにとっても関心の高いトピックとなっています。

IIIF Japan イベント開催のご案内

<http://iiif.jp>



6. プレプリントサービスの隆盛

2017年はさまざまなプレプリントサービスがスタートしました。非営利団体のCenter for Open Scienceが立ち上げた法学のLawArXivや農学のAgriXivをはじめ、Elsevier社による生物学のBioRx、米国化学会（ACS）のChemRxivなどが公開されています。SPARC Japan セミナーのテーマにもなりました。

第2回 SPARC Japan セミナー2017「プレプリントとオープンアクセス」

<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2017/20171030.html>

7. Sci-Hub・ResearchGateと出版社

Sci-HubによるElsevier社やACSの著作権侵害が認定されました。また、この判決を受けてかSci-Hubのドメイン名が一部利用できなくなっていますが、Sci-Hubも別のアクセス方法を提供するなど、この争いはまだまだ続きそうです。

US court grants Elsevier millions in damages from Sci-Hub

<http://www.nature.com/news/us-court-grants-elsevier-millions-in-damages-from-sci-hub-1.22196>

研究者ソーシャルネットワークサービスであるResearchGateで、出版社5社の要求に応じて論文170万件を利用しにくくする対処を行ったことや、Springer Nature社と雑誌論文共有について共同声明を出すなどの動きがありました。

ResearchGate and Springer Nature plan cooperation

<https://www.researchgate.net/blog/post/researchgate-and-springer-nature-plan-cooperation>

R^G

8. 出版社による論文共有サービス

2016年10月にSpringer Nature社のSharedItが、2017年7月にWiley Content Sharingが開始されました。論文著者や購読者は自分が利用可能なコンテンツへの「共有可能なリンク」を取得できるようになっています。SharedItについては初年度の利用状況もリリースしています。

Wileyジャーナルでコンテンツ・シェアリングサービスを開始 / 共有可能なリンクを介して無料で論文の閲覧が可能に

<http://www.wiley.co.jp/blog/pse/?p=35624>

Springer Nature continues to advance sharing

<http://group.springernature.com/us/group/media/pres-s-releases/springer-nature-continues-to-advance-sharing/15256962>

9. 海外でのビッグディールに関する動向

ドイツ・台湾・ペルーで2017年のElsevier社との交渉が決裂しました。

ドイツでは2月に一時的にアクセスが復活したものの3月に再度交渉決裂したことや2017年末でElsevier社の購読を中止する機関リストを公開したことも報じられています。また、Springer Nature社やWiley社とは継続的な議論を行うために2017年12月31日付けで契約が終了する機関に対して暫定的な合意に達したこともリリースされています。

A bold open-access push in Germany could change the future of academic publishing

<http://www.sciencemag.org/news/2017/08/bold-open-access-push-germany-could-change-future-academic-publishing>

10. BOAIから15年

2002年のThe Budapest Open Access Initiativeから15年ということで、BOAI15というサイトが作られ、15年間のOAの変化についてのレポートも掲載されています。



BOAI15

<http://www.budapestopenaccessinitiative.org/boai15-1>

OAの進展については、英国大学図書館協会（Universities UK）によって、イギリスの研究成果のうち、37%は出版と同時にOAになることやAPCの価格調査、OAジャーナルのCC BYライセンスに対する姿勢なども調査されています。また、Springer Nature社によって、OA学術書の利用や欧州4カ国を拠点とする研究者の論文のうち、7割がゴールドOAで発表されていることが報じられました。

本記事作成にあたっては国立国会図書館のカレントアウェアネス・ポータル、科学技術振興機構のSTI Updatesを参考にさせていただきました。両機関の情報収集・発信事業に感謝いたします。

（広報普及作業部会）

参加報告

第19回図書館総合展にてオープンアクセス方針策定ガイドとリンク集を紹介

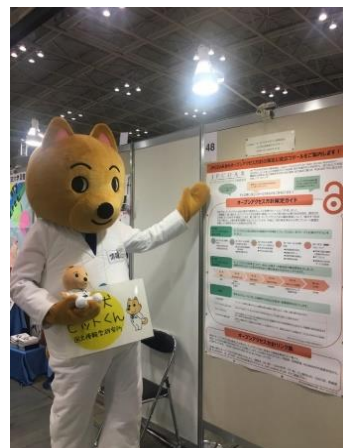
JPCOAR は、2017年11月7日(火)～9日(木)にパシフィコ横浜で開催された第19回図書館総合展にて、「JPCOARからオープンアクセス方針の策定に役立つツールをご案内します」と題したポスター発表を行いました。

会場では、OA方針成果普及タスクフォースのメンバーが、各機関でのOA方針の策定・実施をスムーズに進めるための支援ツールである「オープンアクセス方針策定ガイド」、「オープンアクセス方針リンク集」の説明を行いました。大学図書館や研究機関の関係者を中心に多くの来場者があり、「そもそもOA方針とはどういったものか」、「方針策定時や策定後にどのような取り組みをするのか」、「方針策定を行う際にこれらのツールを参考にしたい」、「他機関の例がわかると取り組みやすくなるので、より実例が反映されたものになると嬉しい」といった質問や感想が寄せられました。

今回発表したポスターや、策定ガイド、リンク集はJPCOARウェブサイトにて公開しています。ポスターセッションで寄せられた意見を参考にして、今後OA方針策定ツールをさらに充実させていきます。

- ・第19回図書館総合展発表ポスター：<http://id.nii.ac.jp/1458/00000035/>
- ・オープンアクセス方針策定ガイド：<http://id.nii.ac.jp/1458/00000021/>
- ・オープンアクセス方針リンク集：https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=53

(OA方針成果普及タスクフォース)



ポスターを紹介する
情報犬ビットくん
(NIIキャラクター)

開催報告

第1回「DSpaceからJAIRO Cloudへのデータ移行相談会」

2017年11月24日(金)、NIIにて第1回「DSpaceからJAIRO Cloudへのデータ移行相談会」を開催しました。DSpaceからJAIRO Cloudへのデータ移行に関し、実践的なノウハウの共有及び技術的な課題について具体的な対策を図ることを目的とした相談会で、参加機関は13機関、参加者は17名でした。

初めにJAIRO Cloud運用作業部会主査の熊渕智行氏(東京大学)から開会のあいさつがあった後、参加者から現在の移行状況を含めた自己紹介がありました。続いて、同作業部会員の前田朗氏(東京大学)が、JAIRO Cloud移行における概要を説明し、作業スケジュールや事務手続き手順、移行時のよくある質問と回答を紹介しました。

全体での意見交換では、移行後のメタデータのマッチング、コンテンツの公開制限、著者典拠など、JAIRO Cloudの機能に関する質問が出され、移行作業の業者委託についても意見が交わされました。また、移行作業を終えた北見工業大学と東京大学から、移行時に苦労した点も交えて事例紹介が行われました。その後の個別相談では、移行状況によって3つのグループに分け、参加者ごとに質問や相談を受け付けました。

アンケートでは「JAIRO Cloud のメリット・デメ

リットや、移行に関する費用・期間について情報が得られ、とても参考になりました。」「同じような状況の他機関担当者の方と情報交換できたことが非常に有用でした。」といった声が寄せられました。

「DSpaceからJAIRO Cloudへのデータ移行相談会」で出された質疑応答内容は、FAQなどに反映させて会員館で共有可能にする予定です。

(JAIRO Cloud運用作業部会)



編集後記

今回初めて情報誌を担当して、改めて月刊DRFの偉大さを感じました。本当におつかれさまでした。(琉大・大谷)

各所での取り組みをいち早く知ることができたのは役得でした。今号が皆様の業務の一助となれば幸いです。(富山大・西村)

2017年を振り返る第2号、いかがでしたか？ 2018年も引き続きのご愛読、どうぞよろしくお願いいたします。(海洋大・竹内)

Webサイト：<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>

Facebook：<https://www.facebook.com/jpcoar/>



JPCOAR Newsletter: CoCOAR 第2号

2017年12月27日 発行

オープンアクセスリポジトリ推進協会

